

2024 年度事業報告書

I. 事業環境

2024 年の新設住宅着工戸数(暦年)は、792 千戸(前年比 3.4%減)となり、2024 年度は 816 千戸(前年比 2.0%増)と3年ぶりに増加に転じました。増加要因は 25 年 4 月からの建築基準法改正による駆け込み需要により一時的に増加と想定しています。これからの新築市場は、住宅建設コストの高止まりや景気の先行き不透明感の継続、少子高齢化による世帯構成の変化などにより、今後も非常に厳しい状況が見込まれます。そのような中、政府による中古住宅の流通促進や住宅省エネ 2024 キャンペーン等の断熱改修施策により窓の改修市場は好調に推移いたしました。

II. 事業活動

(1) 開口部建材等に関する性能・仕様の普及啓発

1) 省エネ建材の普及促進

経済産業省・環境省・国土交通省の3省連携による先進的窓リノベ事業、子育てエコホーム支援事業の実施に関連して、適正かつスムーズな運用を図れるよう制度設計への参画や関係省庁・関係団体意見交換会等に参加しました。

住宅省エネ 2024 キャンペーンにおいても、補助対象商品となる窓の製品型番審査委員会を協会として継続して対応を行いました。

2) 省エネ基準適合義務化への対応

2025 年 4 月から、原則として全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合が義務付けられます。協会では省エネ基準適合義務化への対応として、「住宅開口部性能確認リスト」を公開し、工務店様や建築設計事務所様における適合判定用資料作成業務の簡素化の一助として、窓・ドアの性能確認方法として対応しました。

3) 建材トップランナー制度の目標基準値検討(非木造)

建物用途別に目標基準値を設定するため、建物用途別出荷データの整備が必要となり、準備期間を経て 2026 年度出荷分から調査を開始します。建物用途を住宅・非住宅に区分し、住宅については 2024 年度中に目標が策定され、アルミからアルミ樹脂複合へ材質転換を目指す方向となりました。

4) 防犯建物部品の普及促進

侵入窃盗事件の増加から住宅における防犯意識は高まっており、5 団体防犯建物部品普及促進協議会として、業界誌に向けた防犯建物部品(CP 部品)紹介の記者発表を 2 月に実施しました。また、防犯防災総合展(大阪)や日経セキュリティショウ 2024(東京)等にも出展し、説明員を派遣し普及啓発活動に努めました。11 月には警視庁・警察庁の防犯担当者を対象に、それぞれ防犯実務研修を実施しました。

5) 住宅サッシ・防火戸取扱い事業所登録制度の運営

住宅サッシ・防火戸取扱い事業所向けの定期講習会を、リアル 7 回と WEB2 回の開催を行いました。また、事業所向けの情報提供として、毎月 10 日にメールマガジンを配信しました。

6) CAS(遮煙・遮炎性能防火戸)使用登録事業制度の運営

CAS 個別認定使用登録企業への工場立ち入り検査を 3 社実施しました。「公共建築工事標準仕様書」のスチールドア組立工法に接着工法が追加されたことに伴い、製造の様子を紹介した DVD の提供と普及活動を継続して開催しています。

7) 環境負荷の低減を目指す自主環境行動計画の推進

新しい自主行動計画に基づき、定性及び定量目標に関する 2023 年度実績を集計しました。特に、「廃棄物排出量」については 50%削減、「VOC 排出量」については 67%削減(2013 年度比)と、それぞれ新たな高い目標値を設定し対応を進めています。

(2) 開口部建材等に関する統計の作成及び資料の収集並びに情報の提供

1) 2024 年度住宅用建材とビル用建材使用状況調査を実施、発刊

住宅用サッシの高断熱化に対応し、窓の材質別構成比や Low-E ガラス、トリプルガラス等の利用率、日射遮蔽に有効な外付けシェードの取付率等も含め、使用状況を調査・発刊しました。ビル用サッシ・ドア・カーテンウォール等の建材について、開閉形式や諸性能、材質といった使用状況を、地域別、用途別、新築・改修別といった切り口で調査し、発刊しました。

2) 2025 年度アルミ建材需要予測を公表

市場を取り巻く環境や近年の傾向を考慮し、金属製建具の出荷重量に関する 2024 年度推定及び 2025 年度予測を作成・公表しました。

3) 樹脂サッシ統計の整備

省エネ建材の普及状況の把握を目的として、樹脂外窓、樹脂内窓、アルミ樹脂複合窓の統計を、樹脂サッシ工業会と共同で集計し、経済産業省並びに(一社)日本建材・住宅設備産業協会に報告しました。

4) BASIS の発刊・改訂

在宅でも利用しやすいよう会員限定で協会 HP に掲載している BASIS2021 電子ブック版において、「住宅仕様基準判断における二重窓の日射熱取得率」について 1 月に改訂を行いました。ガラスの日射熱取得率をガラス仕様ごとにとりまとめ、二重窓を設置した場合の住宅仕様基準適合判断に使用いただけるようにしました。

(3) 開口部用建材等に関する国際標準化への対応

- 1) ISO/TC162 の運営(国際幹事国として)及び全体会議の主催(10 月ミラノ)を行いました。
- 2) ISO/TC162/WG4(窓とドア試験法)において、JIS1532(サッシ協会作成)の ISO 化提案を行いました。

(4) 開口部建材等の技術、品質及び規格に関する調査研究

1) JIS 制定、改正の推進と検討

建具の面内変形性能の調査と検証 (製品規格)

建具のあおり試験方法の検証と JIS 化検討 (試験規格)

JISA1514 建具の結露防止性能試験方法の改正 (試験規格)

2) JIS 定期見直し/維持管理

JISA4706、JISA4702、JISA5545 (3 製品規格)

JISA1414、JISA1492（2試験規格）

3) 新試験方法の開発

開閉力試験方法(力計による測定法、他)

気密性試験方法(圧力管法による検証)

4) 防犯建物部品の技術開発・審査

2024年度「防犯性能の高い建物部品」通則申請審査において、第63～66次で計34品目が追加されました。

(5) 開口部建材等の製造業及びそれらの関連業に従事する者を対象とする人材育成事業

1) 資格認定技能検定

① 積算資格認定制度の運営

契約適正化を推進する人材育成の一環として「2024年度 積算資格認定試験」を実施しました。オンライン説明会の実施、採点の一部外部委託など運営の効率化を図りました。受験者778名、合格者549名。年度末累計資格取得者は5,188名となりました。

② 登録サッシ・カーテンウォール基幹技能者育成事業

「当初講習」を宮城、大阪、宮崎の計3ヶ所で開催し62名が合格しました。

「更新講習」では対象者297名中246名合格しました。これにより、年度末資格保有者は1,223名(前年度末+19名)となりました。

③ サッシ施工員の次世代の担い手育成に向けたPR活動

施工会社事業主に対し、建設キャリアアップシステム(CCUS)登録を推進しました。

2) 研修会

① ビルサッシ契約適正化推進活動

3月に「第20回2024年度ビル建材全国契約適正化推進会議」を開催し、支部地区における契約適正化推進に関する取組み状況について情報共有を行いました。

② 住宅サッシの契約標準化推進活動

住宅サッシの契約標準化講習会の開催にあたり、ブロックからの要望に応え全国19会場にて実施しました。内容についても、講師と参加者、参加者同士といったコミュニケーションを導入し、契約標準化を図る上で実践的なものとなりました。

③ CS対応の向上

苦情が入った際の課題・対策を整理し、対応方法について紹介する「クレーム対応セミナー」を年2回開催しました。参加人数は、7月527名、2月468名となり、アンケート結果では参加した殆どの方から「理解でき、参考になった」との声をいただきました。

各社お客様相談窓口担当を対象として、「カスハラ対応セミナー」を開催し基本的なお客様対応力の向上を図りました。

(6) 開口部建材等に係わる情報収集及び提言

1) リサイクル活動の推進

今後廃棄量の増加が見込まれる樹脂窓製品のリサイクルに関して、樹脂窓リサイクル委員会

と連携し、業界における標準づくりにむけて協会内に樹脂リサイクル WG を立ち上げ活動を推進します。

2) 行政からの各種助成・支援制度に関する情報収集と制度設計への提言

住宅省エネキャンペーン関係省庁関係団体意見交換会に参画しました。

「Ⅱ. 事業活動 (1) 1)」に同じ。

3) 物流効率化への対応

フィジカルインターネット実現会議 建材・住宅設備 WG の構成員として、商習慣見直し TF に参画しました。建材・住宅設備業界における物流課題検討会にて「建材・設備物流における納品条件適正化に向けたガイドライン」の策定に寄与するとともに、サッシ業界向けのチラシを作成し啓発活動を推進します。

(7) 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

1) 特定技能制度への「金属製サッシ・ドア製造業」業種の申請開始

業界各社における製造現場での労働力不足が深刻化する中、業界として「生産性向上」と「働きやすい環境づくり」に取り組むとともに、特定技能制度への「金属製サッシ・ドア製造業」の業種追加がされ、2024 年 10 月より申請が可能となりました。業界として昨年 3 月末に発信した「サッシ・ドア製造業における生産性向上等の業界計画」について本制度の活用も併せて推進していきます。

2) 流通会員制度の推進

サッシ業界の発展に不可欠であるサッシ流通店・サッシ販売事業者の事業基盤強化に向けて、事業に役立つ情報の提供や各種サービス・コンテンツの企画を目的とした流通会員制度を昨年度発足し会員募集活動を行いました。流通幹事会員は 2025 年 3 月末で 90 社、4 月入会 14 社、合計 104 社となりました。流通幹事会員向け特別セミナーを 5 月 8 月 9 月 2 月と 4 回開催しました。今後、全国的な活動とともに、エリアにおける各種活動に向けてブロック単位での活動も推進していきます。

3) 情報発信力の強化

広報部会を中心とし、協会の情報発信力の向上に関する対応を実施しています。協会ホームページによる情報発信として契約標準化や各種資格認定試験等の告知を行いました。窓リノベ 2025 事業の普及促進にむけては協会 HP での発信の他、業界誌での広告対応やセミナーの開催等積極的な対応を実施しました。また、会報誌「MADOKARA」は 7 月と 2 月に発刊し、業界動向や流通店の事業活動など、提供する情報の充実を図りました。

「IT トренд & 情報セキュリティ対策」を毎月ホームページで紹介したほか、四半期単位でコンテンツをサマリーし会員向けに発信しました。また、ホームページのアクセス状況を分析し、広報部会と情報共有を行いました。

4) 施工管理者安全推進

施工管理者安全推進大会をオンラインにて開催し、250 名が参加しました。

以上